

# 平成 23 年度地震研究所 研修報告書

平成 23 年 7 月 7 日

研修運営委員長 殿

研修課題	第二海堡地震観測点不具合復旧作業の見学		期間	平成 23 年 7 月 1 日
代表者 所属名	技術部 技術開発室	代表者 氏名	浦野幸子	TEL 03-5841-0796
研修参加者 (計 2 人)	外西奈津美・浦野幸子			
<p>(研修結果)</p> <p>東京湾第二海堡地震観測点の不具合復旧作業に同行し、見学を行った。</p> <p>研修参加者以外の同行者：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震研：総合観測室 坂上実技術職員、管理係 鈴木隆人主任、 地震火山情報センター 中川茂樹助教</li> <li>・白山工業株式会社：防災システム事業部 安藤浩氏、吉田信氏</li> </ul> <p>(研修日程) 7 月 1 日(金)</p> <p>9:20 京浜急行・横須賀中央駅に集合、国交省東京湾口航路事務所へ。</p> <p>10:15 事務所発の船で第二海堡へ行き、復旧作業の見学を行う。</p> <p>15:15 第二海堡発の船で東京湾口航路事務所へ帰所。</p> <p>(実務に反映された点)</p> <p>観測系・開発系の技術職員はその専門性の違いから、通常、業務上の交流は限定的である。職員研修会等の発表の場で、それぞれの業務の一端を知る事は出来るが、実際に現地に赴き業務に携わることは少ない。一方で技術開発室は、観測によって得られた試料の分析や、観測で用いられる機器の開発等、観測系の業務の一端を担う部署であるため、観測系の業務に対する理解は非常に重要であると考えられる。</p> <p>今回の研修では、アクセスが困難であり、ライフラインの整っていない観測点における観測設備、および、復旧作業の見学を通し、これらについての理解を深めることができた。</p> <p>(今後仕事に使いたい点)</p> <p>今回の不具合は通信ケーブルのコネクタ部分の接続トラブルが原因であった。また、GPS アンテナの新しい支柱として持って行った部品のねじが現地の部品と合わないというトラブルもあった。トラブルの起こりうる事例を知ること、それを回避し、困難な条件の元で作業を行う観測系技術職員の負担を少しでも軽減できるようにサポートしたいと思う。</p> <p>(成果報告・発表方法) 平成 23 年度職員研修会</p>				

研修経費報告		
費用	明細	金額
交通費	武蔵小杉-横須賀中央間（往復） 浦野技術職員	1,120 円
交通費	氷川台-横須賀中央間（往復） 外西技術職員 * 通勤定期利用期間を除く	1,940 円
		合計 3,060 円